

<b>1 学校教育目標</b>
1 児童生徒一人一人の能力や適性に合った教育活動を実践する。 2 互いに励まし助け合い、たくましく生き抜く児童生徒を育成する。 3 社会的自立や将来の豊かな生活に向けての知識・技能・態度を育てる。

<b>2 本年度の重点目標</b>
1 一人一人の教育的ニーズを把握し、発達や障がいに応じた教育の推進 (1) 児童生徒の実態や教育的ニーズに応じた指導・支援の充実 (2) 危機管理の徹底、安全・安心を守る教育の推進 2 基礎的な学力の向上と健康で明るい生活を送るための調和のとれた心身の育成 (1) 人権尊重、人権教育の推進 (2) いじめ防止に向けた取組の強化 (3) 性に関する指導の充実 3 将来の自立と社会参加を目指したキャリア教育の推進と共生社会の実現 (1) キャリア教育の推進と進路支援の充実 (2) 交流及び共同学習の充実 4 教職員の専門性・資質・指導力の向上と組織的・計画的なカリキュラムマネジメントの推進 (1) 教科指導や自立活動、日常生活の指導等の専門性の向上 (2) 体罰防止の徹底 (3) 働き方改革と不祥事防止 5 家庭、地域、関係機関との連携した教育活動の充実 (1) 保護者とのパートナーシップ、PTA活動の充実 (2) 関係機関とのネットワーク強化及び地域支援(センター的役割)の充実

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	組織の活性化	学校教育目標及び重点目標に沿った教育活動を行うことができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>全職員が学校教育目標及び重点目標の達成に向けた教育活動を展開する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員会議で教育目標について周知する。</li> <li>個々の業績評価における目標に学校教育目標及び重点目標を反映させる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標に沿った各学部目標及び目指す児童・生徒像や分掌部の取組について、会議や面談等を通じて共通理解を図った。</li> <li>感染防止対策により、学習活動の制限、行事の中止、縮小、内容の変更を余儀なくされたが、全職員で取組の進捗状況、課題の把握、共有を図りながら、教育活動を展開することができた。</li> </ul>
	危機管理と不祥事防止の徹底	組織として不祥事の未然防止に取り組むことができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人一人が組織の一員である認識を持ち、相互の連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級や学年、学部間での情報共有や連携・協働体制を強化する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議や業務の精選を図り、学部や学級で話し合う時間を確保したことで、児童生徒についての共通理解、情報共有が十分にでき、その後の指導支援に生かすことができた。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>教育公務員としての自覚と使命感を念頭に置いた行動をとる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員一人一人が不祥事防止宣言書を作成し自席のデスクマットなどに置き、定期的にセルフチェックを行う。</li> <li>校内研修を実施するとともに、日常的に未然防止に向けた啓発を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度初めに不祥事防止に向けた校内研修を実施し、未然防止の徹底を呼びかけた。各自作成した宣言書を毎月1日に確認することや、不祥事案の情報を提供したことで、未然防止に努めることができた。</li> </ul>
	働き方改革・業務改善	働き方改革を意識した業務改善ができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>不適切な指導の未然防止を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学期ごとに個人の行動目標の振り返りとグループ協議を実施し、具体的な行動改善に繋げる。</li> <li>児童生徒のことや指導に関することを話し合う時間を設ける。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月1日に個人の行動目標の振り返り、学期末にグループ別協議を行い、日頃のお互いの指導支援について確認する機会を設けたことで、協議以外の場面でも支援について話をする機会が増えた。また、外部講師を招聘した適切な指導に関する研修を実施したことで、コミュニケーションスキルの向上に繋げることができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>年間超過勤務時間が360時間を超過する職員の割合を30%にする。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月労働安全衛生委員会を実施し、前月の勤務時間の実態を把握する。</li> <li>毎週水曜日を「定時退勤・午後6時施錠日」に設定する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間超過勤務時間が360時間を超過する職員は9.5%であった。</li> <li>労働安全衛生委員会の実態把握と継続的な働きかけにより、定時退勤日が定着し、7時退庁週間の導入も円滑に進めることができた。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で時間を意識した働き方改革を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分掌部、学部等で行事・会議の見直しを検討する。</li> <li>ICTを活用した効率的な業務遂行を模索する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>分掌部会及び運営委員会において、分掌部の業務の見直しを行ったことで、業務の精選や校務分掌部間の連携の強化ができた。</li> <li>情報管理委員会によるICT活用の研修や効果的な活用に関する情報提供等により、各種会議、校内研修において資料のデータ化が実現した。</li> </ul>	

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
授業の充実	学習指導の改善とカリキュラムマネジメントにつながる学習評価の充実を目指す。	職員一人一人がカリキュラムマネジメントを意識し、次年度の教育課程編成に活用することができたか	・職員の授業力や指導力を高める。	・校内職員授業参観を行い、他の教員の指導や支援方法から学び、授業改善を行う。 ・学習評価の集計から、単元目標や学習内容、学習グループ等の検討を行う。	B	・感染症拡大防止のため、授業の様子を録画したものを参観した。録画のため、それぞれの参観希望の授業以外も観ることができ、指導の参考にすることができた。 ・学習評価の集計から、単元目標や学習内容、学習グループ等の反省を行い、具体的に指導内容や学習グループの計画を修正したり変更したりするなど、授業改善を行うことができた。有効だった指導方法や教材などを学部を超えて職員間で共有を図り、学校全体の指導力向上に繋げていきたい。
			・次年度の教育課程編成に、授業の評価シートを活用する。	学部毎に評価シートを活用し、単元にかかる時数を集計し、次年度の教育課程編成への資料として活用する。		
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実	児童生徒の学びとキャリア教育の視点を意識した授業作りができたか	・キャリア教育で育てたい力を各教科領域での取り扱う内容毎に整理し、授業作りに生かす。	キャリア教育の視点で整理した育てたい一覧表を作成し、学習内容の計画を作成する際の活かし方をキャリア教育研修会で周知し、小、中、高一貫したキャリア教育の推進を図る。	A	キャリア教育で育てたい力を「各学部目指す児童・生徒像」と対応するように整理した。さらに、学習指導要領の内容を元に各教科等の対応表を各学部毎に作成し、書面によるキャリア教育研修会を開催し、職員のキャリア教育についての理解を深めることができた。学校の教育活動全体を通じ、計画的・組織的にキャリア教育の推進を図っていきたい。
	進路支援の充実	一人ひとりの児童生徒に応じた進路指導ができたか	・中学部3年生9人、高等部3年生16人の進路実現を図る。	生徒と保護者が事業所の仕事内容や条件を分かりやすく閲覧できる事業所ガイドブックを改良し、現場実習の事前学習や事後学習、進路面談で活用することで、生徒自身が自分で納得し進路決定できる一助とする。高等部3年生の進路決定に際しては、ケース会議を開き、様々な視点から、チームとして生徒の適性と進路先を考える。		B

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
生徒（生活）指導	問題行動等の未然防止	生徒指導等に関わる情報の共有、全職員の共通理解のもとで生徒指導を実施することができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導上の問題事案等について、職員間で情報共有を行う。</li> <li>・一貫した指導ができるよう、共通理解を図りながら生徒指導を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部主事や学級担任との連携と分掌部会で生徒指導に関する情報共有を行い、共通理解を図る。</li> <li>・実態に応じた「高等部生徒心得」「中学部のきまり」の内容の見直しと情報共有を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分掌部会において毎回、生徒指導に係る問題事案について情報共有を行うことができた。</li> <li>・問題事案に対する組織的な対応について、全職員にマニュアルに沿って周知することができた。</li> </ul>
	安全な登下校指導及び関係機関との連携	児童生徒の安全・安心な登下校体制を構築することができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力通学生に対する登下校指導と通学路の安全確認を徹底する。</li> <li>・通学バス、保護者送迎、放課後等デイサービス事業所の校内への安全な乗り入れ体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に登下校指導を実施し、通学路に危険箇所がないか安全確認をし、職員間で情報共有を行う。</li> <li>・バス会社と定期的に情報交換会を実施し、放課後等デイサービス事業所については駐車箇所について共通理解を図る。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に高等部1年生の自力通学生と通学バスを対象とした通学路安全指導を実施した。危険箇所等を確認したことで、通学時に関する事故は起こらなかった。次年度は、学期ごとの安全指導を実施する。</li> <li>・通学バス乗車や放課後等デイサービスの送迎について、いくつかの課題が見られた。その都度、バス会社、保護者、事業所と連携をとり解決することができた。次年度は、通学バス利用者に対する説明会を実施し、利用に関する規定の周知を徹底を図る。</li> </ul>
人権教育の推進	人権教育	人権教育の推進はできたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で人権学習を推進する体制を整える。</li> <li>・各学部の発達段階に応じた実体に即した人権教育を実施する。</li> </ul>	あらゆる教育活動で、各学部の知的側面（人権問題を知ること）、価値的・態度的側面（自分も他者も大切に思う心）、技能的側面（気持ちを適切に伝え正しく行動する）を全職員が意識して教育活動を行うことができる。	A	年度初めに、「球磨支援学校人権教育の視点」を周知した。また、職員研修においては、第三次とりまとめの概要を周知した後、人権教育を通じて育てたい資質・能力の3つの側面が具体的にどの学習で育てることができるかをグループ協議したことで、人権教育の視点を意識した授業づくりや教育活動に取組むことができた。
	命を大切に育む指導	全職員の意識が高まり、人権意識が高まったか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内外の研修会へ積極的に参加すること等により、全職員が人権教育に対する基本的認識の深化を図る。</li> <li>・教育の実践的指導力の向上をはかる</li> </ul>	職員がお互いの教育実践上の課題等について日常的に相談し合えるようにするとともに自由な意見交換のできる研修等の実施により人権問題に対して正しい理解を深める。	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、校外での研修開催が少なく、主任など関係職員のみでの参加となったが、研修で利用した資料を回覧したり、動画配信されたものに関しては、閲覧できることを全職員に周知した。また、校内研修では、部落問題について講話を行い、研修後の事後アンケートで「参考になった」という意見が多く、人権教育に対する基本的な認識を深めることができた。
	命を大切に育む指導	自他の命を大切に育む心や人権を尊重する態度を育むことができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権が尊重される人間関係づくり、人権が尊重される学習活動、人権が尊重される環境づくりを柱にして、人権が尊重されている教育の場としての学校を目指す。</li> </ul>	すべての教科等の授業で、「自己肯定感を育む支援」、「自己選択・決定の場」等の工夫を行うことにより、「人権が尊重される授業づくり」を行う。	A	人権学習をはじめ、すべての教科等の授業において、各学部や学級の実態に応じた内容の授業づくりを行うことができた。「球磨支援学校人権教育の視点」を活用し、育てたい資質・能力を明確にして授業づくりを行い、自他の命を大切に育む人権教育に学校全体で取組むことができた。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
いじめの防止等	いじめ問題の未然防止対策	児童生徒の実態に応じた実態把握と様子観察を日頃から行うことができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめの起こりにくい環境や状況をつくる。</li> <li>日頃から児童生徒の様子の変化に気づけるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃からストレスマネジメント、カウンセリングマインド等の視点で児童生徒とかわるようになる。</li> <li>学期1回の心のアンケート調査の実施といじめ防止対策委員会を利用し必要な情報を全職員で共有する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の様子観察を日常的に行うと同時に、本校心のアンケート及び県公立学校心のアンケートを学期毎に実施し、いじめの実態把握に積極的に取り組んだ。</li> <li>いじめ防止対策委員会においてアンケートの反省を行い、児童生徒の実態に応じたアンケートの実施形態や設問、集計方法の工夫を行い、アンケートの有用性を高めることができた。</li> </ul>
	いじめ問題の組織的対応	いじめ問題について組織的かつ継続的な対応に取組むことができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題に対する職員の感度を高め、いじめ問題に対する対応を組織的に行う。</li> <li>いじめ問題について原因や背景、状況等を把握し、当事者間の継続的な指導支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題に対して、組織的対応の重要性について共通理解を図る。</li> <li>いじめ防止対策委員会の中で、いじめ問題に対して適切な対応を確認し、解消に向けた継続的な取組等について情報共有する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止基本方針に基づき、いじめの定義やいじめ事案が起こった時の組織的対応についてアンケート実施と合わせて、全職員に周知を行うことができた。</li> <li>今年度は、いじめ事案は0件であったが、友達関係でのトラブル等の事案は数件あった。事案が起こった際には、担任を中心に相互に聞き取りを行い、学部や学年なども含め組織的に対応し、継続的な指導支援を行うことができた。次年度は、生徒指導主事が情報集約担当者であることの周知の徹底を図り、未然防止、早期対応に努めてきたい。</li> </ul>
地域支援	センター的機能の充実	人吉球磨地域の特別支援教育の拠点として、地域へ向けて積極的な発信と取組の充実を図ることができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の学校等や関係機関へ本校の役割や特別支援教育の情報を積極的に発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校ホームページの「地域支援」のページを整理する。「球磨支援通信」の内容を充実させ、今年度4回発行する。特別支援教育に関する情報を発信することで、地域への理解啓発を図る。</li> </ul>	B	<p>現在、本校ホームページの整理を実施している。「球磨支援通信」の発行は2号にとどまっているが、現在の人吉球磨地域の実情に応じた話題提供をすることができている。年度内にあと1号は発行し、地域への理解啓発を図りたい。</p>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>本校コーディネーター及び教職員の専門性向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムを利用し、巡回相談や研修等の内容について情報提供を行う。コーディネーターの巡回相談等への同行により、対応についての専門性を高める。他地域の取組を参考にし、校内支援体制を整えていく。</li> </ul>		
	交流及び共同学習の充実	各学部において地域との交流及び共同学習の充実を図ることができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校間交流において、活動の喜びを感じることができるような交流を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学部でコロナ禍における学校間交流の内容を検討し、動画等のツールを活用して実施する。年度末には担当者間で反省を行い、次年度の方向性を決めておく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染防止対策を講じたうえで、動画やオンライン、作業等、各学部の実情に応じた交流の内容を検討し、実施することができた。今後は、令和6年度の校舎移転を視野に入れ、内容のさらなる検討を進めていく。</li> </ul>

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校保健の充実		う歯及び歯周疾患の予防に向けた指導の充実と歯科受診等の家庭への啓発が図れたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任と養護教諭が連携し、歯磨きの習慣化に向けた指導（歯みがきのポイント・歯ブラシチェック等）や歯周疾患予防に向けた指導を、歯と口の健康週間等を活用し取り組んでいく。</li> <li>・歯科検診事後指導（受診率のアップ・受診につながらない理由を知り解決方法を一緒に考える等）を家庭と連携しながら行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月・11月に歯と口の健康に関する情報を職員・家庭に知らせる</li> <li>・歯ブラシの交換時期をほけんだより等で知らせたり、自分で判断できる児童生徒へは歯みがきをする場所へ掲示することで気づきや行動を促す。</li> <li>・個人に合った歯みがきの方法について、児童生徒本人や担任・保護者に知らせる。</li> <li>・歯科検診の結果を受け、受診勧告を行うとともに歯科指導に活かしていく。</li> <li>・ほけんだよりを活用して予防的ケアについても情報提供していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月、11月にほけんだよりを通して、家庭への情報提供を行った。昨年度も受診率の上昇が見られていたが、今年度は更に50%に上昇、家庭によっては定期的に受診されている家庭も見られることから、家庭の歯科保健に関する意識は高まってきているようである。一方で、歯科保健に対する捉え方に差があり、受診に繋がっていない児童生徒・保護者にどのようにアプローチしていくかが課題である。</li> <li>・小学部では給食後の仕上げ磨きを行い、中学部では保健の授業で養護教諭がブラッシング指導を行った。高等部では、給食後個別にブラッシング指導を実施したり、歯磨きのポイントを掲示物で示したりする等の対応を行った。今後も発達段階に応じた歯科指導を継続して行っていきたい。</li> </ul>
		性に関する指導の充実が図れたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「性に関するアンケート」（保護者向け、教員向け）の分析結果を反映させ、児童生徒の生活年齢や発達段階を考慮した指導を行い、目標の達成度、理解度、改善点等を性教育推進委員会にて検討する。</li> <li>・LGBTをはじめとした性の多様性について、職員の理解促進を図るための研修を年1回以上実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性教育推進委員会の中で、「性に関するアンケート」で保護者のニーズ及び教員が指導が十分ではない項目として上位に挙げていた内容について、取組の達成状況を確認する。</li> <li>・「性に関するアンケート」の対象を新1年生の保護者に絞り、担任へアンケート結果を報告する。また、教員を対象としたアンケートを実施し、次年度の年間計画へ生かす。</li> <li>・LGBTをはじめとする性の多様性について、正しい理解を図るための情報提供や、性に関する指導を行う上での職員の悩みや要望を聞き取る無記名アンケート等を実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の「性に関するアンケート」結果を受けて検討した年間計画をもとに授業を実施し、性教育推進委員会の中で授業の成果と課題、学校全体の検討事項、情報共有等を行った。</li> <li>・今年度5月実施のアンケート（保護者対象）の分析を行い、各担任に結果を報告することができた。1学期中にアンケートを実施したことで児童生徒の性に関する課題や保護者のニーズを知ることができ、性に関する指導に生かすことができた。</li> <li>・11月に性に関する職員研修を実施することができた。事前アンケートを行ない、教師が性に関する指導で悩んでいることや、保護者からの相談をまとめることができた。講師の先生から多様な性や性に関する指導のあり方など幅広い内容でアドバイスをいただくことができた。</li> </ul>
学校安全の充実		安全管理、生活安全に関する取組の充実による安全安心な学校づくりができたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の安全点検の確実な実施と、その後の迅速な対応を目指す。</li> <li>・災害発生等の緊急時の対応について、職員が十分に理解し適切に対応できるよう、マニュアルの確認、訓練の実施を行う。</li> <li>・職員の危機管理意識の向上を目指し、ヒヤリハット報告の目標件数を年間100件とし、全職員で共通理解が必要な事例については報告する機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月学部に向けて保健体育部職員より、安全点検及びデータベースへの記入について呼び掛けを行う。</li> <li>・安全点検で異常が見つかった際は、安全点検担当と事務部で連携し、迅速に調査、修繕、業者依頼等を行う。</li> <li>・災害時等の簡易版マニュアルを作成し、緊急時に教室等で確認しながら対応できるようにする。</li> <li>・訓練を実施する際は、避難経路の搜索、人員報告、通報等の最重点事項について全職員で事前に共通理解を図る場を設ける。</li> <li>・職員に積極的なヒヤリハット報告の入力を促すとともに、全体で確認が必要な案件に関しては、朝会等の時間を活用して報告を行い、全体で情報を共有する。</li> <li>・前後期1回ずつを目標に、ヒヤリハット事例の分析を行い、事例の傾向や具体的対策について報告する機会を設定する。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の安全点検にて、異常箇所からの修繕等の対応まで速やかに実施することができたデータベースへの入力については、今後も継続して呼びかけを行い、100%を目指す。</li> <li>・今年度もコロナ対策を行いつつ、初期対応訓練及び避難訓練を実施した。訓練前には各学部で避難行動や避難経路、人員報告方法等について確認を行い、事後アンケートを集約し、改善すべき点等について全職員で共通理解を図ることができた。</li> <li>・職員研修において、引き渡し訓練シミュレーションを行なうことができた。実施後、職員アンケートの意見をまとめマニュアル作成に取り組んでいる。</li> <li>・ヒヤリハット報告は38件である（1月21日現在）。分掌部からの報告の説明が不十分だったこともあり、例年に比べ報告件数が少なかった。引き続きデータベース入力を呼びかけたり、学校生活を通して気付いたことを即入力できるよう、タブレットを活用するなどの改善を行なっていき、職員の危機管理意識の向上を図っていく必要がある。</li> </ul>

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
地域連携	学校運営協議会	コミュニティ・スクールの円滑な運営ができたか	・学校運営協議会委員にコミュニティ・スクールの仕組みについて理解していただき、学校の教育目標やビジョンを共有する。 ・学校評価の計画、結果について、学校運営協議会で協議を行う。	・協議会を学期1回年間3回実施する。 ・本校の取組みについて説明を行い、意見交換等を行う。 ・地域との協働体制を構築する。	B	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第1回のみ開催となってしまった。第1回運営協議会では、昨年度コミュニティ・スクール導入して初めての会合だったため、コミュニティ・スクールの仕組みについて説明を行った。参加いただいた委員の方々の情報交換では、地域との協働体制の構築について参考となる意見をいただいた。第3回の学校運営協議会は資料配付、紙面上で意見をいただく形で開催した。
	多良木町の防災施設としての役割	福祉子ども避難所として運営できる態勢が整っているか。	・「福祉子ども避難所マニュアル」の内容を見直し、実効性の高いマニュアルを作成する。	・多良木町の防災担当者と情報共有を行いながら、町としての役割と学校の役割を明確にする。 ・災害発生時から避難所開設までの流れや運営の仕方等、具体的な内容をマニュアルに記載する。 ・作成したマニュアルを職員へ周知し、防災への意識を高める。	B	・多良木町と情報共有を行い、本校で福祉子ども避難所マニュアルを作成する必要がないことが分かった。災害発生時から町と学校それぞれの役割については明確にできていないため、細かい点について町との協定書、覚書に沿って改めて打ち合わせを行っていく必要がある。 ・勤務時、勤務時間外、勤務を要しない日等、職員がそれぞれどのような動きをすればよいのかマイタイムライン等の活用や職員研修を計画的に実施していくことが今後の課題である。

#### 4 学校関係者評価

新型コロナ感染防止により、2月開催の学校運営協議会は書面による開催となった。学校運営協議会委員には保護者、職員に対して実施した学校評価アンケートを参考に、今年度の学校運営、教育活動全般について感想と御意見を伺った。  
 ○全体的に高評価で良好な学校運営がうかがえる。  
 ○丁寧で計画的な運営がなされている。  
 ○コロナ禍の中で大変な思いをされながら色々な対策をとられていると感心した。校外学習や修学旅行など、外へ出て得られることがたくさんあるのに今の状況では仕方ない部分があると認識している。できる範囲で実施していただきたいへんありがたく思う。  
 ○新型コロナ感染対策について細かく設定してあり感染防止に努められていることがわかった。  
 ○今年度も「学校の施設・設備は十分に整っている」の項目について保護者、職員ともに「当てはまらない」「あまり当てはまらない」の評価が高い。費用がかかるので簡単ではないが、次の目標として頑張してほしい。  
 ○来年度は町内中学校との交流を充実してほしい。

#### 5 総合評価

1 本年度の学校教育目標に対する評価  
 学校教育目標の達成を目指し、各学部では学部目標、めざす児童・生徒像を設定し、一人一人の教育的ニーズに応じた教育の実践に全職員で取り組んだ。昨年度に引き続き感染対策を講じ指導計画の見直しを行いながらの教育活動であったが、本年度の保護者アンケートにおける評価項目「子供は学校生活を楽しんでいる」の回答「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が93%、「学校は、卒業後や将来を見通した進路指導を行っている」の回答「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が91%という高評価が得られたことから、概ね目標は達成できたと考える。

2 本年度の重点目標に対する評価  
 ・児童生徒の実態や教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を図るために、学部を超えた校内授業参観週間を定期的に実施し相互に学ぶことで授業改善、指導力の向上に繋げることができた。また、学習指導要領の改定をうけ、各学部において「個別の教育支援計画」、「個別の指導計画」の様式の見直しを行ったことで有効な活用に繋がっている。  
 ・高等部の進路決定については、将来の自立や社会参加に向けて、進路に関する学習、キャリア教育等の充実を図り、家庭や関係機関との連携を密に行いながら進路実現を目指しているところであり、一人一人の希望に合った進路実現ができたと思う。  
 ・交流及び共同学習については、昨年度からコロナ禍により従来通りの実施が難しい状況が続いていたが、ICT機器の活用が進み、近隣の小中学校とオンラインで実施することができた。機器の操作や児童生徒が慣れるまでに時間を要したが、学校紹介やポッチャ大会を行い、相互理解を図ることができた。今後もオンラインによる交流の一層の推進を図り、交流及び共同学習の推進を継続していく。

3 自己評価総括表  
 学校評価の評価の観点と26項目を設定した。A評価(十分達成できている)が12項目、B評価(概ね達成できている)が14項目、C評価(やや不十分である)、D評価(不十分である)はないという結果であった。それぞれの評価項目における成果と課題をふまえ、今後の学校運営及び教育活動の改善に生かしていく。

#### 6 次年度への課題・改善方策

・児童生徒の自立と社会参加の実現のためには、教師の専門性・指導力の更なる向上が必要である。教師が一人一人の実態や教育的ニーズを把握し、個に応じた教材教具の工夫、一斉指導での授業の進め方及び多様な学びを促進する授業づくりに取り組んでいく。自立活動、日常生活の指導等、実践的な研究を深め、本校教育の一層の充実と専門性の向上を図る。  
 ・進路指導については、これまで以上に実習・就労先の開拓、生徒の能力・適性、社会の動き等を踏まえた教育課程の工夫・改善に引き続き取り組み、一人一人の進路希望実現を目指す。  
 ・教師の指導スキルを向上させ、ICT機器を効果的に活用した授業展開や学習活動の充実を図る。  
 ・多良木町と福祉子ども避難所としての協定を結んでいるため、福祉子ども避難所としての機能、役割の明確化等について、町との連携、調整が必要である。また、多良木高校跡地への移転後の福祉子ども避難所としての機能のビジョンを考えておく必要がある。  
 ・令和6年度の多良木高等学校跡地への移転に向けて、地域の資源活用や地域貢献等について熟議して、地域に愛される学校を目指して創造的に取り組んでいく。そのために、達成可能な内容を精査し、負担にならないように優先順位を踏まえて、一步一步着実に進めていく。また、移転後は多良木中学校と隣接になる。町内小中学校、特に多良木中学校との学校間交流のあり方、移転前に実施しておくべきこと等について、教職員の共通理解を深め、共生社会のモデルを目指す。